

## 平成18年5月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、若干正確性を欠く面もありますが、正確には従来どおり個表をご覧ください。

### 放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8月限定)	40～350	利水時期ですが問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.5 未満～2.6	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	5～7	問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	細目協定で定めている全ての有害物質等（砒素などの重金属類、PCB などの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など 35 項目）とダイオキシン類について測定した。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは異常のない値でした。	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		5.8～7.4	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度がたかいほど数値が大きい。		0.3～1.0	従来と変わりなく、問題のない値でした

## 公共用水域水質調査結果（（ 2 ）表）

エコパークから和島村付近まで、古志茂橋（中田川）、矢郷橋、堰橋、乙茂橋（以上島崎川）で同日に採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	8～14	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		29～112 生活排水 24	各地点ともほとんど差異はなく問題のない値でした。また生活排水も 24 と低い値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5	0.8～1.6 生活排水 0.8	各地点ともほとんど差異はなく環境基準の範囲内で問題のない値でした。生活排水も 0.8 と環境基準の範囲内で問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。		0.87～1.5 生活排水 0.72	各地点とも差異はなく問題のない値でした。生活排水も 0.72 と汚れの少ない状態でした。環境基準はありません。なお同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も環境基準の範囲内で問題のない値でした。
全燐 (mg/l)	島崎川の 3ヶ所で測定。水中に含まれる燐化合物の燐の総量。燐化合物の増加は各種排水の混入に由来する場合が多い。		0.059～0.11	問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	乙茂橋で測定。鉛・砒素について測定した。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満の数値でした。	問題のない値でした。

- ・ 今回の測定で、生活排水の影響は見られませんでした。

## 粉じん（空气中浮遊アスベスト）調査結果（（ 3 ）表）

稲川集落内道路と、敷地内 6 地点および処分場内の非飛散性アスベスト埋立て作業現場 4 地点の計 11 地点で空气中に浮遊しているアスベストを調査しました。

調査結果：

- ・ 全ての地点で、空気 1 リットル中のアスベストは 0.3 本未満で問題のない値でした。

## エコパーク施設排出物調査結果（（ 4 ）表）

水処理施設から排出される脱水汚泥の有害物質等を調査しましたが、いずれも基準値以下の問題のない値でした。

## 農業用水水質調査結果（（ 5 ）表）

農業用水として使用している防災調整池から採水調査したものです。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		8.3	昨年と同様に上昇傾向が見られますが問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5mg/l 以下	3.9	問題のない値でした。
DO (mg/l)	数値が高いほど水に溶け込んでいる酸素の量が多い。	5mg/l 以上	13	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		17	利水期ですが問題のない値でした。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/l)	土壌や水中の有機物分解でアンモニア塩が生成され、更に硝化菌により分解されたもの。	10mg/l 以下	0.20	問題のない値でした。

## 悪臭調査結果（（ 6 ）表）

処分場及び各施設から近隣に悪臭を発生していないか、敷地境界で臭気を測定したものです。

測定結果：

- ・ 臭気指数、臭気濃度とも許容限度以下の 10 未満で、問題ありませんでした。

### 埋立量年次推移（平成 11 年度から平成 17 年度までは測量実績値）

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成 11 年度	76,464	76,464	1,407,536
平成 12 年度	117,876	194,340	1,289,660
平成 13 年度	154,102	348,442	1,135,558
平成 14 年度	84,916	433,358	1,050,642
平成 15 年度	106,886	540,244	943,756
平成 16 年度	97,026	637,270	846,730
平成 17 年度	92,195	729,465	754,535
平成 18 年度(4～5 月)	13,766	743,231	740,769